



第4回九州森林・林業セミナー

木材自給率50%に向けて
今後の公共建築物等における木材利用と実践

農林水産省では、平成21年12月に「森林・林業再生プラン」を公表し、2020年までに木材の自給率を50%以上にする

の目標を設定するとともに、平成22年10月には「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が制定・施行され、

国などの公的機関が率先して、公共建築物や木質バイオマス製品（紙など）を積極的に使用し、民間への波及も図りながら、森林と林業の再生を図ることを目指しています。

また、当局城風人企画調整室長より「間伐材を利用した紙の普及への取組」と題し、我が国の木材需要の4割を占める紙製品の内容、国産材の利用状況、国産材（間伐材）の需要拡大を通して森林の健全化や地球温暖化への貢献を図ろうとしている取り組み（間伐紙「木になる紙」）の内容・効果などについての報告がありました。

第4回九州森林・林業セミナーで講演を聴く参加者

本市食品交流会館で講演を聴く参加者。また、今年度は「国際森林年」でもあることから、九州森林管理局では、平成22年1月31日、熊本市食品交流会館において、「木材自

給率50%に向けて（その1）今後の公共建築物等における木材利用と実践」をテーマに、国際森林年記念第4回九州森林・林業セミナーを開きました。セミナーでは、九州森林管理局長沖修司が、「このセミナーにより、多くの方々に国産材の利用促進についての理解を深めていただきたい」とのあいさつ。その後、2人の講師に講演をいただきました。

まず、林野庁池淵雅和木材利用課長より「今後の公共建築物や木質バイオマス等での木材利用の促進」と題して、「木材利用促進法」に基づき、国は今後公共建築物、木質バイオマス等における木材利用をどのように推進していくのか、公共建築物の木造化や木質バイオマス利用の現状および今後の展開などについて、次に、（有）山辺構造設計事務所代表山辺豊彦氏より「地域材を活用した建築物の設計」と題し、大工塾にて行っている実大構造実験と構造解析による検証に基づく、木造住宅の構造設計の要点、地域材を活用した学校建築の最新設計事例などについての講演をいただきました。



質疑応答で質問をする参加者

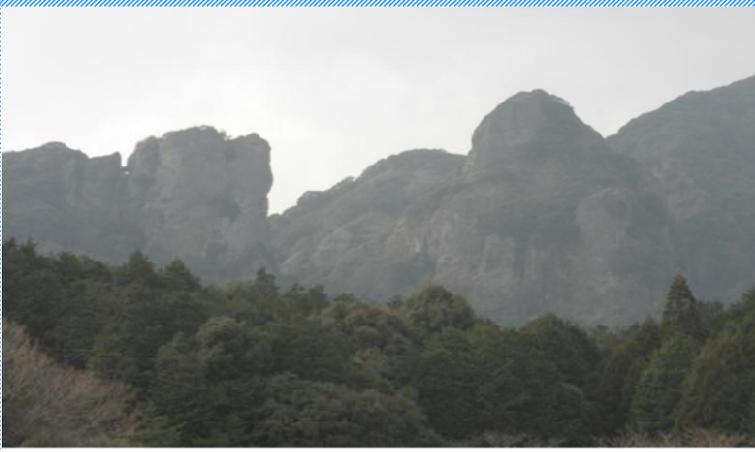
（担当＝指導普及課）

自署の名山



佐賀森林管理署
流域管理調整官
下村 康広

黒髪山は佐賀県の西部に位置する県を代表する山（標高516m）で、九州百名山に選ばれています。その黒髪山は黒髪山地の盟主であり、古くは古伊万里の積出港であった伊万里市、1616年に陶工季参平らによ



(上) 雄岩、雌岩の奇岩が聳える神秘的な雰囲気黒髪山

(下) 武雄市方面から望む標高516mの黒髪山

このように、雄岩、雌岩の奇岩が聳える神秘的な雰囲気。昔から山岳信仰の場として、鎌倉時代には修験道場だったの坊、里坊などの

逃げる時、投げた御鬘（カツラ）がこの山に止まったことから「黒髪山」と名づけたという説をはじめ諸説があります。

て泉山に陶石が発見され日本で初めて磁器が焼かれた有田町、温泉や山神籠石、玉島古墳、潮見古墳など古代遺跡が残る武雄市の2市1町に及んでいます。黒髪山は、天童岩、雄岩、雌岩などの奇岩、巨石がそびえ、照葉樹林に包まれた優れた景観を

有しています。また、天然記念物のカネコシダをはじめ固有種であるクロカミラン、クロカミシライトソウなど植物の宝庫であり、1937年に県初の県立自然公園に指定されています。山の名の由来は、神話の中にイザナミノミコトがあ

巨石・奇岩が聳える『黒髪山』 信仰の山は植物の宝庫

門洞、白山洞など、当時を偲ぶ洞窟群があります。頂上の天童岩のすぐ下には、黒髪神社の上宮があり、早魃の時に雨乞い祈願をすると、霊験があらたかであると言われています。

黒髪山周辺には、伊万里市木工芸センター「ピノキオの家」やキャンプ場、マイセンの森などが整備され、黒髪山の自然と森林浴などを楽しむことができます。

ハイキング、史跡、温泉めぐり、焼き物などの好きな方は、是非、佐賀県観光を兼ねてお越しください。名山、黒髪山がお待ちしております。



黒髪山の麓で焼かれる有田焼等の焼き物



会場で植樹を行う参加者＝鹿児島

桜島治山35周年記念植樹祭を開催

【鹿児島森林管理署】鹿児島市桜島治山施行地で桜島地区民有林直轄治山事業35周年記念植樹祭を鹿児島地域植樹祭と共催で開きました。桜島は、35年の月日を経て、治山施設の整備が図られると共に、航空実灌工が進み、民有林治山事業は地域に大きく貢献しています。当日は、鹿児島地域の林業関係者、森林整備協力者・緑の少年団など、約350人の参加がありました。式典終了後、桜島を間近に望む引の平下流の治山施行地跡地に於いて抵抗性クロマツ、シャリンバイなどの植樹が行われ、参加者から「苗木の生長が楽しみ」との声が聞かれ、今後も官民連携した取り組みの大切や治山事業の重要性を感じました。

林政記者クラブ
森林技術センターの取組現場を視察
 ～低コスト造林やシカ被害対策の状況取材～

12月8～9日の2日間、九州森林管理局林政記者クラブ6社（林材・林業・日刊木材・林経・サイモク・西日本林材）による現地視察を実施。

沖修司局長らが森林技術センターで取り組んでいる低コスト造林やシカ被害対策などの取組現場を案内しました。

はじめに、コンテナ苗の試験栽培に取り組みられている長倉樹苗園（宮崎市田野町）を取材。年間を通して植え付けができ、労力とコスト削減が期待されるコンテナ苗の実証と普及の取り



現地でシカ被害対策状況取材する一行

組みに関心を示され多くの質問が寄せられました。

鰐頭国有林では、シカの広域移動を未然に防ぎ、移動状況を監視するために設置したシカ広域移動規制柵。青井岳国有林では箱罾とくくり罾による効率的な捕獲手法の取り組みや高性能林業機械による搬出と更新・保育コストの比較を目的にコスト1/2を目指した誘導伐システムの

試験地など当局の技術開発目標として同センターが取り組んでいる現地の取材を行い、シカ被害の現状に対する当局の取り組みに理解を深めていただきました。（担当＝総務課）



箱罾にかかったシカ

「低コスト路網」研修会開く

【西都児湯森林管理署】保育間伐（活用型）実行個所で宮崎県や森林組合・林業事業体と署職員など50人が参加し、低コスト路網整備現地研修会を開催。参加事業体のオペレーターによる新工法路網作設の実演後、過去に作設された路網の現状を視察しました。最後に意見交換を行い、参加者からは、「現場は、傾斜が緩やかな箇所が多いが、急傾斜地で路網を作設する際、大変勉強になった」などの意見や感想があり、今後の技術向上



現場にて路網整備の検討を行う参加者＝西都児湯

に努めることで研修会を終了しました。

『再造林』の推進を

大分県では、近年、木材価格の低迷等により、木（スギ・ヒノキ）を売っても、林家の手元に残るお金は僅かで、再造林を行えば、地持えをはじめ、植林

その後の下刈り、間伐等に経費がかかり、逆に足りずに、手出しをしなければならなくなる

とから、意欲は低下し、再造林放棄放棄地が増加しています。このため、森林の荒廃が進み、

植えなければ、化石資源（石油・石炭等）同様、将来、木材が欲しくても、手に入らなくなると



大分県森林組合連合会

代表理事会長

岩崎 泰也さん

の皆様が行う再造林の負担を軽減するための、「森林再生基金」を積み立てることにしました。この「再生基金」は、1立方

これにより、伐採跡地に再造林が確実に行われ、災害防止や水源かん養などの多目的機能の維持・増進が図れるとともに、木材の持続的な生産・供給が可能となります。加えて、森林が若返り、木材生産や二酸化炭素吸収機能がアップするなどの効果も期待できます。

いう不測の事態も想定されます。本県では、このような事態が起きないように、昨年の3月に、関係業界の総意のもと、「大分県森林再生機構」（理事長：岩崎泰也）を創設し、森林所有者

ら20円の計50円の協力をいただき、これを基金として、再造林に対し、補助金に5万円/ha（以内）の上乗せを、今年の春期造林から行うこととしております。



第6回実践・公開講座「竹細工」

1月23日熊本城内の監物台樹木園みどりの交流館で第6回実践・公開講座「竹細工」を実施。28人が参加しました。熊本県伝統工芸館竹工芸サークルの方々の指導で、今回は網代(あじろ)編みの花かご作りに挑戦。参加者は慣れない手つきで網代編みの基本である「3すくい3かぶせ」をひとつひとつ編んでいきました。編み間違えてなかなか進まなかったりする場面もありましたが、最後まで自分の力で完成させた人、素直に講師の方に助けを求める人など、参加のみなさんは時間も忘れるほど竹



網代編みに挑戦する参加者の皆さん

細工に熱中していました。参加者は完成した作品を手に竹かごに何を入れようかと嬉しそうに話していました。

平成22年度の「実践・公開講座」も全6回の行程を無事に終了いたしました。参加者は計168人にのぼり、これからも多くの方に自然のすばらしさや有り難さを感じてもらえるような講座にしていきたいと考えています。(担当：指導普及課)

労基署と労働安全衛生協議会開催

【鹿児島森林管理署】鹿児島・



横手 秀則さん



ふと目にした、地元新聞に「森林モニター応募」の記事があったのが、モニター応募の理



現場安全パトロールを行う参加者＝鹿児島

北薩・屋久島の各森林管理署と、鹿児島・加治木労働基準監督署や請負事業体など18人が参加し、労働安全衛生確保対策連絡協議会を開催。全員で現場安全。パトロールを行った後、署から労働

安全衛生に対する取り組みについて、労働基準監督署から労働災害状況と安全パトロールの点検結果講評が行われました。最後に、現場における積極的な意見交換を行い労働災害防止に努めることを確認しました。

労基署と安全パトロール

【大分西部森林管理署】労働安全の確保と一層の対策強化を図るため、事業実行中の請負事業体と中津労働基準監督署の合同安全パトロールを実施。作業道新設および保育間伐活用型の事業個所において、当日の作業内容や安全対策について説明。監督署から最近の災害事例を交



安全パトロールを行う関係者＝大分西部

えて、作業毎に注意すべき事項や危険予知活動の推進について具体的な助言などがありました。このような安全対策の取り組みを契機に労働災害の未然防止を誓い合いました。

森林の持つ役割

私は三十代の時、数年間クワエートで働いた事がありますが、見渡せど砂漠で、時々吹き荒れる砂漠の中にボツンと数本のヤナギのような樹木が植えてあり、それらが格好のオアシスとなり木陰を提供していた事が今でも思い出されます。森林の持つ役割には「水源のかん養」「地球温暖化防止」などがあります。マクロ的には「森林」でもミクロ的には一本

一本の木の集合体であり、この一本の木は人間が生活する上においては、隣接地との境界上、時には「いさかい」の起因となることもあり、一方、マ

「照葉樹・原生林金弦(かなづる)の森観察会」「照葉樹の原生林稲尾岳登山会」などに参加し、森林・林業のすばらしさを実感しています。健康維持のため山道を歩くときは、落下した小石や朽ち木などを除去するよう心がけています。自然は人類の宝です。(鹿児島県肝付町在住)

プロ綾 第13回連携会議開く 事業の取組状況を説明

宮崎県綾町会議室において綾の照葉樹林プロジェクト連携会議各機関5者（森林管理局、宮崎県、綾町、日本自然保護協会、てるはの森の会）の出席の下、第13回の連携会議が開かれました。

今回の会議議題は平成22年度事業計画の進捗状況が主な議題で、各事業の現時点の取組状況が説明された承されました。

また、報告事項として、今年5月に予定している「国際照葉樹林サミット2011」の開催



事業の取組状況について説明を受ける参加者

に向けた準備状況やユネスコの「人間と生物圏計画(MAB)」の「生物圏保全地域(BR)」指定に向けた綾町の取組状況について説明がありました。

(担当：計画課)

先進技術講習会に120人

【宮崎森林管理署】台風被災個所において、宮崎県・宮崎市・林業事業体と近隣森林管理署の関係者約120人参加し、「治



広葉樹を植栽する関係者の皆さん＝宮崎



何かの時、ふと見たり聞いたりしたことを、手帳やノートの端に書き留めることがある。平成21年1月16日、会計検査に随行し、宿泊した

旅館の壁に掛けられていた書画

こころの豊かさを

を書き写してきた。「二度とない人生だから、一輪の花にも無限の愛をそいでゆこう。一羽の鳥の声にも無心の耳をかたむけてゆこう。二度とない人生だから、まず一番身近な者たちに

こころをあらいきよめてゆこう」。後で、作者「坂村真民」を検索してみた。1909年玉名郡府本村（現荒尾市）生まれ、2006年97歳で死去。この詞は1980年教科書に採用された

いかに、真面目でひたむきである。心の中で見えないものを、心の豊かさを大切に、しっかりと生きるには理想的な職場と考える。ちなみに、菊池市の菊〇〇旅館306号室にこの書画はあった。

(総務部長 山元康則)

間で森林を再生させる手法を目的に行ったもの。工藤篤署長のあいさつの後、事業の目的や効果の説明、植栽方法の指導を受け、植樹を行いました。

森林教室(木工教室)の開催

【佐賀森林管理署】神埼市立脊振小学校5、6年生を対象に森林教室を行いました。はじめに嘉村校長先生が「脊振山には遊々の森『自然がいっぱい遊びの森』があり、当小学校は緑豊かな環境に囲まれています」とあいさつ。その後、当署職員が木目が美しいことや加工が容易

なことなど木の特性について説明をおこない、児童らに木の枝やドンクリ、マツボックリなどで装飾した木製のネームプレート作りの指導を行いました。二時間という限られた時間でしたが出来上がった作品はどれも個性あふれるものとなりました。児童からは、「木材や木の実などを使って普段体験できないことなどができ楽しかった」などの声が聞かれました。



木製のネームプレート作りをする児童＝佐賀

平成22年度新規採用者

当局では2月1日付でⅡ種1人を採用し、次のおり配属しました。

◇Ⅱ種(行政)
宮崎森林管理署 森田晃喜

綾プロ 始動から5年が経過 町民に取組状況を説明



「事業説明会」において説明を聞く参加者

宮崎県綾町民の方々に綾の照葉樹林プロジェクトの取組状況を説明する「事業説明会」を、綾町高年者研修センターで開きました。今年は、プロジェクトが発足してから5年が経過したことから、①照葉樹林の保護・復元の取組（宮崎森林管理署）②宮崎県の保護・復元の取組（宮崎県）③調査データの蓄積と共有（日本自然保護協会）④「ユネスコエコパーク」について（綾町）⑤MAB計画委員会綾視察について（てるはの森の

会）関係機関がと題し、これまでの取組成果や取組状況などを説明しました。

説明会には、地域住民や報道関係者など約100人が参加。参加者からは、「いかにちゃんと利用するか、利用する視点が重要ではないか」との意見が出されました。（担当：計画課）



ドングリを見せながら、お尻はどちら・・・？、この質問で子供たちの話を盛り上げることもできます。子供たちは「ドングリの帽子」ということは知っていることから、答はお尻に帽子をかぶることになります。（ドングリは、種子を堅果（けんか）という帽子の部分は殻斗（かくと）といいます。）

「お倉ヶ浜ふれあいの森」で植樹

【宮崎北部森林管理署】「お倉ヶ浜ふれあいの森」において、日向市ふるさと自然を守る会との共催で植樹および自然環境会を開き、地元の子供会や家族など80人が参加。抵抗性クロマツ300本を植え付けました。その後、森林インストラクターによる「自然環境教室」を実施。参加者はウサギの食害から苗木を守る幼齡樹保護カバーの設置と海岸林内看板の清掃作業に汗



を流しました。

親子で植樹をする参加者＝宮崎北部

④1 シリブカガシ（ブナ科）

シリブカガシの判別は、ドングリの着地点が凹んでいることに注目し、葉を観察すると、側脈と側脈の間の葉身が、裏側が凹み表側に膨らんでいますので、「葉もシリブカ」と覚えると簡単です。

シリブカガシは他のドングリの木と違って、花は9月～10月に咲き、堅果は翌年の同じ時期（2年がかり）で熟します。花と堅果を同時に観察でき、堅果の着地点が凹み、花は上向きに咲く（ブナ科には同じように咲くものもある）、葉の裏は銀白色など面白い生態をしています。樹木園には、中央付近の東側に



2本観察できます。



先日、テレビを見ていたら、H22年の新聞コラムの大賞を決める番組を目にした。選考結果は某新聞社の尖閣諸島問題を取り上げたコラムで「尖」の文字を「小」と「大」に分解して、昨年起こった事件を「大と小」に展開していく内容である▼閃いた時の作者の笑みが伺えるが、内容はともかくいいところに目を付けたものである▼さっそく真似てみた▼本紙・みどりの散歩道の「緑」。右側の部分は口ク、ハクと読み、竹や木の皮をはいでそれが転々と散るさまを文字にしたものとのこと。昔、物を書き付ける時は竹の表面をはいで、文字を刻み付けていたそうである。「緑」は皮をはいだ青竹のような緑色に染めた糸をさしたもので、元々は色そのものを示す漢字ではなく、緑色に染められた「糸」という意味だったそうである語源を調べるのもなかなか楽しい▼ご承知のとおり、今年は、国際森林年。私には、ロゴのデザインにある中心的役割を果たす人間と、回りの生物や動物や草木等が、太く鮮やかな「緑の糸」で繋がれているような気がします（た）